

[研究ノート]

幼児のことばにおけるクライの用法の使用傾向

東 寺 祐 亮*

*日本文理大学工学部

Usage Trends of *Kurai* in Young Children

Yusuke TOJI*

*School of Engineering, Nippon Bunri University

1. はじめに

クライは名詞や動詞等に接続して、概数、程度、取り立て・評価を表す。たとえば、(1a)では「学生の数がおおよそ30人」であることを表している。また、(1b)は「疲れていた」の度合いが「1歩もあるけない」程度であることを表している。(1c)においては、話し手が「ゆで卵が作れる」ことは最低限だと考えているということを表している。

- (1) a. 概数用法:
 体育館には、学生が30人くらいいた。
 (cf. 日本語記述文法研究会 2009:136)
- b. 程度用法:
1歩もあるけないくらい疲れていた。
 (cf. 日本語記述文法研究会 2008:246)
- c. 取り立て・評価用法:
 料理が苦手だと言っても、ゆで卵くらい作れるよね? (cf. 日本語記述文法研究会 2009:128)

幼児におけるクライの使用については、先行研究が2:05-2:08 (2:05は2歳5ヵ月のこと。以降、「年:月」で表す。)ごろにクライが使用され始めることを指摘している。たとえば、永野(1959)は、クライについて幼児が2:08-2:09ごろに(2)の例を使用したと述べている。

- (2) a. コノクライナラ、ダイジョウブ? (2:08)
 b. コレモ ハイイノ、マスミチャングライニ。
 (2:09) (永野 1959:393)

また、大久保(1967)は幼児が2:05ごろに(3a)の例を、4:02ごろに(3b)の例を使用したと述べている。

- (3) a. 四ツカグライ。(2:05)
 b. コノグライ コノグライダカラ イイデシヨ。
 (4:02) (大久保 1967:96)

しかし、先行研究が挙げているクライの例は、程度用法、概数用法に関して挙げられているものの、取り立て・評価用法については例が見られない。クライの用法によって使用時期に差があるのだろうか。

先行研究において、幼児のクライの用法の使用時期に着目した調査は管見の限りない。永野(1959)は幼児のさまざまな助詞について記述しており、クライに関して(2)の例を示している。また、大久保(1976)は、語彙、助詞、活用語など網羅的に記述しており、クライに関して(3)の例を示して4歳までに3例見られたことを報告している。しかし、いずれの研究もクライの用法の使用時期については詳しい記述が見られない。

そこで、本研究では、CHILDESデータベース(MacWhinney 2000)に収録されている幼児の発話データからクライの例を収集し、クライの用法の使用時期に

差があるのかを調査した。本稿では、調査の結果、クライの用法について幼児の使用時期に差が見られることを報告する。

2. 調査方法

2-1 データ

本研究では、CHILDES データベース (MacWhinney 2000) に収録されている Ogawa コーパス (Ogawa 2016) と Noji コーパス (Noji 1973-77) の2人の幼児 (Ogawa コーパス: Ayumi, Noji コーパス: Sumihare) を対象として、幼児のクライの使用における用法を調査した。調査データは CLAN プログラムを使用して、Ayumi (Ogawa 2016) と Sumihare (Noji 1973-77) の全ファイル (Ayumi 00900-60100, Sumihare 00000-61100) を対象に、クライの発話頻度と発話行を検索した。

2-2 用法の分類

クライの意味について、奥津 (1986:66) は概数 ((4a)), 程度 ((4b)), 取り立て ((4c)) があることを指摘している。概数は数量をおよその数量として表すものを指し、程度は何らかの語の程度を表すものを指す。取り立てについて奥津 (1986) は沼田 (1986) に説明を任せており、その沼田 (1986:209-211) はクライの取り立てが最低限という意味を表すことを指摘している。

- (4) a. 1ヵ月100万ぐらいは楽に稼ぐ。
(cf. 奥津 1986:66, (2)1)
- b. 軽工業はお話にならないぐらい貧弱だ。
(cf. 奥津 1986:66, (3)5)
- c. ウイスキーはわからないが、ビールぐらい飲むさ。
(cf. 沼田 1986:210, (5))

また、日本語記述文法研究会 (2008, 2009) は、クライの意味について概数 ((1a)), 程度 ((1b)), 評価 ((1c)) の3つに分類している。日本語記述文法研究会 (2009:128) は、評価について、クライが評価を表す取り立て助詞であり、ある事柄に関して最低限のもの、当然のもの、最も当てはまりやすいものと話し手が考えるものを取り立てるのに用いられると述べている。

- (1) a. 概数用法:
体育館には、学生が30人ぐらいいた。
(cf. 日本語記述文法研究会 2009:136)

- b. 程度用法:
1歩もあるけないぐらい疲れていた。
(cf. 日本語記述文法研究会 2008:246)
- c. 取り立て・評価用法:
料理が苦手だと言っても、ゆで卵ぐらい作れるよね? (cf. 日本語記述文法研究会 2009:128)

これらを踏まえ、本研究では得られたデータを概数用法、程度用法、取り立て・評価用法の3つに分類した。沼田 (1986) が指摘する取り立てと日本語記述文法研究会 (2009) が指摘する評価の取り立ては共通しているため、取り立て・評価用法としてまとめた。

2-3 分類の手続き

CHILDES データベースの検索結果に対して手作業でクライの使用例を抽出し、歌の一部や親の発話の繰り返し、同音異義語を除外した。1度の発話で同じ語句を繰り返し発話している場合はその文全体で頻度1として加算した。なお、クライには同じ意味を表し交換できる形式としてグライがある (日本語記述文法研究会 2009:128)。そのため、グライはクライの異形態として扱って集計している。

用法の分類にあたっては、調査者がそれぞれの例を確認して各例の用法を判断した。主な判断基準は次のとおりである。「約/およそ」と言い換えられるものは概数用法とした。「ほど/程度」と言い換えられるものは程度用法とした (日本語記述文法研究会 2009:135)。「最低限/少なくとも」と言い換えられるものは取り立て・評価用法とした。言い換えで判断できないものは文の前後関係から用法を特定した。しかし、沼田 (1986:213) が「店を持つことは確かに難しい。しかし少し頑張れば2軒ぐらいは持てるようになる。」について、概数を表すとも取り立てを表すとも解釈できると指摘しているように、例のみで判断できない場合がある。その場合、CHILDES データベースに含まれる前後の文脈を踏まえて判断した。

3. 調査結果

3-1 各用法の使用開始時期

調査の結果、Ayumi においては概数用法が他の用法に先行していた。たとえば、(5a) の「十分ぐらい」、(5b) の「五千円ぐらい」といった概数用法は3:01から例が観察された。一方、(6a) の「中ぐらい」、(6b) の「これぐらい」といった程度用法は3:03から例が観察された。

Ayumi の各用法の使用開始時期は図1に示す。

- (5) a. あと十分くらいかかるの。
(Ayumi, 3:01. 00)
- b. 五千円くらいですよ。
(Ayumi, 3:01. 00)
- (6) a. 中くらいの花が咲きました。
(Ayumi, 3:03. 00)
- b. 歩美ちゃんもう十四キロあるから、これくらい
 大きくなった。
(Ayumi, 3:08. 00)

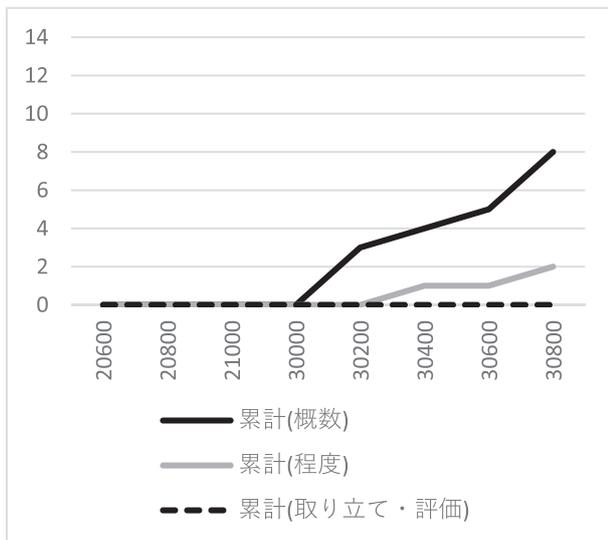


図1 クライの各用法の使用開始時期 (Ayumi)

Sumihare においても概数用法が他の用法に先行していた。たとえば、(7a) の「三つくらい」、(7b) の「三べんぐらい」といった概数用法は2:07から例が観察された。一方、(8a) の「少ーしぐらい」、(8b) の「どれぐらい」といった程度用法は2:08から例が観察された。ただし、概数用法の用例数が8例のみで少数であること、概数用法が先行したのは1例のみでその1例目と2例目に期間が空いていることから、Sumihare において程度用法よりも先に概数用法が習得されたかははっきりとしない。Sumihare の各用法の使用開始時期は図2に示す。

- (7) a. 僕三つくらい食べる。
(Sumihare, 2:07. 21)
- b. 三べんぐらい。
(Sumihare, 3:02. 00)
- (8) a. 少ーしぐらいちょうだい。
(Sumihare, 2:08. 00)

- b. お母ちゃん、アメリカのジープどれぐらい大きい？
(Sumihare, 2:10. 00)

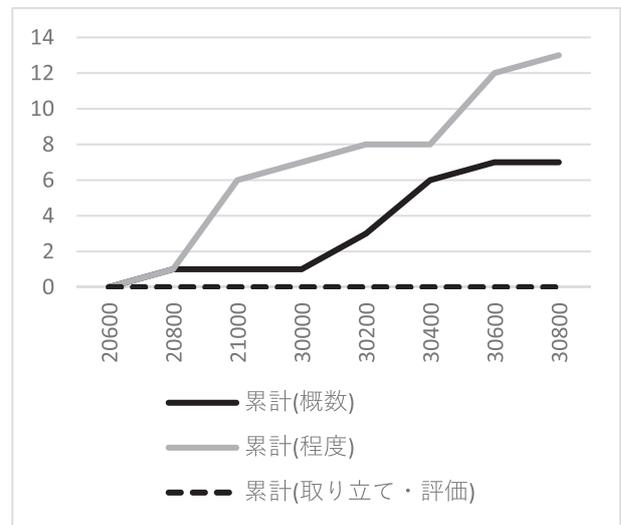


図2 クライの各用法の使用開始時期 (Sumihare)

概数用法と程度用法に対して、取り立て・評価用法は遅れて観察される。たとえば、Ayumi において(9)の「そのくらい」といった取り立て・評価用法は5:04から観察され、全データのうち1例しか観察されなかった。また、Sumihare においては取り立て・評価用法が1例も観察されなかった。

- (9) えー、そのくらいいいでしょ。
(Ayumi, 5:04. 00)

以上より、幼児のクライの使用において、概数用法は他の用法に対して概ね先行する傾向が見られる。また、取り立て・評価用法は概数用法と程度用法に対して遅れて使用され始める傾向が見られる。

3-2 程度用法の使用頻度

Ayumi においても Sumihare においても程度用法は概数用法よりも後に観察されるが、程度用法が最も多く観察された。図3と表1に示すように Ayumi において4:00は概数用法の累計数が13例、程度用法の累計数が9例であるが、4:02から概数用法の累計数が17例、程度用法の累計数が24例であり、4:02から程度用法の累計数が概数用法の累計数を超えて、以降、程度用法の累計数が最も多くなっている。Sumihare においては概数用法が2:07に1例、程度用法が2:08に1例、2:10で程度用法が6例となる。以降、図4と表2が示すように程度用法の累計数が最も多くなっている。

4. 結論と展望

本研究では、CHILDES データベースに収録されている Ayumi と Sumihare の発話を対象として、幼児のクライの使用における用法を調査した。その結果、概数用法が他の用法に対して概ね先行して使用され始めること、取り立て・評価用法は他の用法から遅れて使用され始めること、程度用法の使用が次第に増加して最も使用頻度が高いことが明らかになった。

成人の文法においてはクライの概数用法、程度用法、取り立て・評価用法のいずれも観察することができるが、幼児の文法においては概数用法から観察され、次に程度用法が観察され、最後に取り立て・評価用法が観察されるという順序が見られる。このような現象を観察・分析することは、幼児のことばの意味・用法がどのように拡張されていくのかを明らかにする手掛かりになりうる。本稿では、幼児のクライの用法に関するデータを報告したが、データの提示にとどまっている。どのような要因によって順序が発生し、どのように幼児のことばの意味・用法が拡張されていくのかについては今後の課題である。

参考文献

- (1) MacWhinney, Brian. 2000 *The CHILDES Project: Tools for analyzing talk*. Third Edition. Mahwah, N.J.: Lawrence Erlbaum Associates.
- (2) 永野賢 1959 「幼児の言語発達について:主として助詞の習得過程を中心に」『ことばの研究1』, pp. 383-396. (国立国語研究所論集 <http://doi.org/10.15084/00001725>)
- (3) Noji, Junya. 1973-77 *Yooji no gengo seikatsuno jittai I-IV*. Bunka Hyoron Shuppan.
- (4) 日本語記述文法研究会 2008 『現代日本語文法6』, くろしお出版.
- (5) 日本語記述文法研究会 2009 『現代日本語文法5』, くろしお出版.
- (6) 沼田善子 1986 「形式副詞」奥津敬一郎・沼田善子・杉本武 『いわゆる日本語助詞の研究』, pp. 105-225, 凡人社.
- (7) 奥津敬一郎 1986 「形式副詞」奥津敬一郎・沼田善子・杉本武 『いわゆる日本語助詞の研究』, pp. 29-104, 凡人社.
- (8) 大久保愛 1967 『幼児言語の発達』, 東京堂出版.
- (9) Ogawa, Yoshiki. 2016 *Ogawa Corpus*. Pittsburgh, PA: TalkBank. doi:10.21415/T5H314

(2024年11月9日受理)

